

桑野川での宝田小学校児童による記念植樹の開催について

～クワガタの林～

那賀川河川事務所では、2月22日(金)に平成19年3月に完成した川原排水ポンプ場の場内植樹スペース約150m²に苗木約500本の植樹を阿南市立宝田小学校6年生23名の児童により、記念植樹を行いました。

植樹は、排水ポンプ場の防音対策、排水ポンプ場内の夜間作業時のライトの遮光対策を目的とし、また、桑野川の治水事業である「桑野川床上浸水対策特別緊急事業」を理解をしてもらうとともに、河川への親しみを持ってもらう目的で行いました。

当日は、徳島県自然保護協会の会長である森本康滋氏においでいただき、学校の教室で植樹の目的について学んだ後、現場である川原排水ポンプ場内にて植樹の木の種類や方法について説明を受け、小学生による植樹を行っていただきました。

今回の植樹の木の選定については、地元の木々を使うとともにクワガタやカブトムシがいる林となるようクヌギやコナラを混ぜた植生としています。

小学生が一生懸命土を掘って、木が大きく育つように心を込めて植えている時の笑顔と喜ぶ姿を見ることができました。

これからも、地元住民等に河川に親しみを持ってもらえるように、植樹祭など、住民の皆様方が参加をしていただけるイベントを引き続き行っていきます。

